

児童が運動の楽しさやできた喜びを 味わうことができる体育授業の構築

大分県津久見市立津久見小学校

全校児童数	245名(男子111名 女子134名)		
全クラス数	11	教職員数	23名
体育専科教員訪問学校数			3校
訪問校	堅徳小・青江小・千怒小		
体育専科教員名			川野 祐二

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体力・運動能力調査結果から

- ・本校では、「握力」「50m走」「立ち幅跳び」に課題がある。
- ・比較的高い結果の学年と、反対に低下が懸念される結果の学年があり、学年間の差を埋めていくことも課題である。

◆体育指導の工夫改善

- ・毎時間、本時のめあては示されているが、「わかったこと」「できたこと」の視点でのふり返り活動が十分でないことがある。

2 取組の計画

- ①一校一実践「5分間タイム」の年間計画に沿った実践
 - ②多様な運動経験の場の取り入れと運動量の確保
 - ③「めあて」の提示と、「わかったこと」「できるようになったこと」を確認・交流する「ふり返り」の場の位置づけ
 - ④単元目標ならびに指導の流れを担任との共有
 - ⑤児童の動きを高める指導上の重要なポイントの共有による指導方法の工夫改善の推進
 - ⑥動きを見合ったり、教え合ったり、相互に称え合ったりする場の設定による自ら考え工夫する体育学習の推進
- *各学期末に児童による授業評価アンケートを4校で実施

Do：実践内容

1. 一校一実践「5分間タイム」

- (1)「5分間タイム」で取り組む低・中・高学年の月ごとの内容を職員室体育掲示板に明示し、年間計画に沿った実践の継続で体力向上を図る。各年度ごとに年間計画の見直しも行う。

2. 多様な運動経験の取り入れと運動量の確保

- (1)書籍やネット等から、児童が運動の楽しさを味わいながら意欲的に取り組める運動を意図的にたくさん取り入れる。
- (2)活動の指示や動きのポイントの確認など、集合・話し合いの時間はできる限り短くし、運動量の確保を図る。
- (3)ゲームではルールを工夫し、運動能力に関係なくだれもが同じように運動量を確保できるようにする。

3. めあての提示とふり返りの場の位置づけ

- (1)「めあて」「ふり返り」は、A3用紙に両面印刷しカードケースにはさんで提示し、全員で声をそろえて読ませ確認する。
- (2)「わかったこと」「できるようになったこと」の視点でふり返らせ、めあての達成度合いを一人ひとりに確認させる。

4. 単元目標ならびに指導の流れの共有

- (1)各学年の各単元指導計画の略案を示し、担任と単元目標ならびに指導の流れの共有を図る。

5. 指導方法の工夫改善の推進

- (1)個の力に応じて選択できる場を可能な限り設定した上で、児童の動きを高める重要なポイントとなる点や言葉かけを押さえながら、担任の指導方法の工夫改善の推進を図る。

6. 自ら考え工夫する体育学習の推進

- (1)友だちと動きを見合ったり、教え合ったり、相互に称え合ったりする場を積極的に設定し、意欲の高揚を図るとともに自ら考え工夫する体育学習を推進する。

●工夫したこと（&苦労したこと）

- ①コロナ禍の中、感染状況が落ち着いている間にこれまで控えていた体づくり運動を積極的に取り入れ、改めて友だちと協力して運動する楽しさを味わわせることができた。
- ②持久走では、ペアでのラップタイムの記録から自分のペースを見える化し、大会本番での目標タイムを設定させた。大会では目標タイムの達成を目指し、力を出し切る姿が数多く見られた。
- ③訪問校の中には体育備品や用具の保有数が少なく、限られた数量で十分に活動を行える授業の進め方や場の設定に苦労した。

Check：取組の成果

- ①運動の楽しさやできた喜びを味わうことができる体育学習を目指し、児童アンケート(338名)で「体育の学習が楽しい」と肯定的回答の割合が1学期末97.9%、2学期末97.3%であった。
- ②同じく、「体力が向上してきた」と肯定的回答の割合が1学期末91.5%、2学期末91.7%であった。
- ③ティーボールでは、本務校と訪問校1校の3・4年生でジュニアスポーツ指導員ならびにソフトボール指導員の資格をもつ方を招き、「投げる」「捕る」「打つ」基本を指導していただいた。
- ④本務校および訪問校の各先生方から「リレーのバトンパスの指導」「長縄の8の字とびにつなぐスモールステップ」「導入時の楽しく取り組める運動」等々が参考になったと回答いただけた。

Action：今後の課題

- ①担任が一人で授業を行うには準備や指導等で負担が大きい単元(例えばハードル走・幅跳び・高跳び・跳び箱運動・マット運動等)の授業を積極的に行っていたが、負担を少しでも軽減できるような指導・助言を行い、先生方が行う体育学習を支援する。
- ②今年度の体力調査の結果をもとに、体育専科教員として各校に一校一実践の成果と課題の検証を促し、次年度に向けての修正・改善をはたらしかけられていない。体育主任会等の場で、日々の授業の中への位置づけも改めて促していく必要がある。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

【児童】

- ・様々な運動にチャレンジしようとする意欲の高揚
- ・「体育の学習が楽しい」と肯定的に回答する児童の増加
- ・「他を思いやるやさしさ」や「仲間と協力する心」の涵養

【教職員】

- ・体育学習を通じた学級づくり(仲間づくり)の意識の向上
- ・体育専科教員との有効な指導方法の共有による指導力の向上

◇ 「ティーボール」でGTを招聘 (3・4年生)



スケジュール (指導時間)		
挨拶	自己紹介	2分
準備運動	ストレッチ	5分
差ikaiボール	キャッチボール等	13分
ミニゲーム	バット使用	20分
		40分

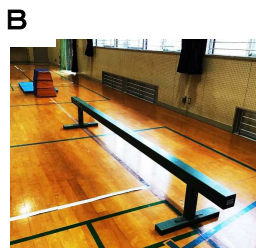
○ジュニアスポーツ指導員ならびに日本ソフトボール協会公認ソフトボール指導員の資格をもつ方を招聘し、本務校・訪問校1校の計4学級で指導していただく。
 ○限られた時間ではあったが、基本的なボールの「投げ方」「捕り方」「打ち方」を丁寧にわかりやすく指導していただく。
 ○来年度は本務校と訪問校3校の3・4年生で計画中。

◇ みんなで楽しく「リズムダンス」(4年生)



○児童から「ダンスに取り組みたい。」と要望があり、4年生で実施。
 ○1組、2組とも希望者で、それぞれダンスリーダーチームを結成。
 ○ダンスリーダーが学級の意見をまとめ、1組は「バター」、2組は「江南スタイル」を選曲。
 ○ダンスリーダーは、学級のみんなが踊りやすいように振り付けを考え、学級のみんंनाへの指導の練習を重ねて授業に臨む。
 ○ダンスリーダーはステージとフロアーに分かれ、2時間の指導。
 ○出来上がった作品は動画に収め、各学級で視聴。
 ○リーダーたちは、「楽しかったけど、指導が難しかった。」と感想。

◇ 「とびばこあそび」の導入 (1・2年生)



○「とびばこあそび」の導入で、A～Dの4つの場を設定。
 ○4グループに分かれ、各場を2分ずつローテーションさせ、腕支持や着地の運動経験を重ねさせる。
 A…コーンからスタートし、ポートボール台を片足で高く踏み切り、お尻がマットに着くようにやわらかく着地。
 B…平均台を両手支持で両足ジャンプ。最後にソフト跳び箱にチャレンジ。
 C…同じ高さの跳び箱を2台つなげ、より遠くまでまたがり、残りは腕支持で前進しながら、最後は腕支持で着地。
 D…跳び箱3台をうさぎ跳びで進み、最後は腕支持で着地。

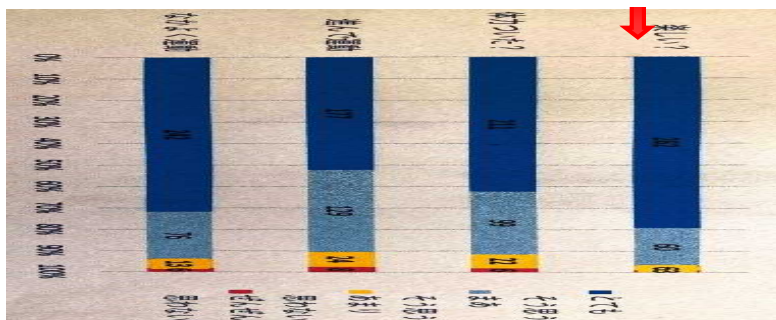
◇ 各学期末に児童による授業評価アンケートの実施

…4校19学級338名で実施:2学期末の結果

- Q1 体育の学習は楽しいですか？
- Q3 めあてを達成するために、自分で考え、自分から進んで運動に取り組みましたか？

- Q2 前よりも**体力がついてきた**と思いますか？
- Q4 体育の学習でも、自分も友だちも大事にして、なかよく運動できましたか？

97.3%



※Q2 **体力がついてきた**

- ・力が強くなった
- ・足が速くなった
- ・体がやわらかくなった
- ・ボールをうまく使えるようになった
- ・疲れなくなった、
- ・素早く動けるようになった

などなど